

## 聚楽第を歩く

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



聚楽第は、民家の密集する地域にあることから、広い面積での発掘調査はなく、小規模な試掘調査や工事に際しての立ち会い調査を積み重ねて、濠の堆積土や肩部を確認しています。また、浅いところで地山の無遺物層や、聚楽第より古い遺構を確認することも、濠の位置や範囲を解明する上で重要なデータになります。近年の調査成果を加え、東西480m・南北730mあまりの城郭を推定できるようになりました。

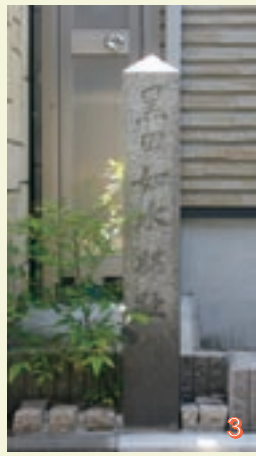
(リーフレット編集委員会)



一条通智恵光院東入る 鏡石町

鏡石町の北端にある石垣です。高さは約2.5mで、東西幅は150mあります。当時のものではありませんが、聚楽第濠跡の段差を残すものと考えられています。リーフレット京都No.213の写真1は、この石垣の南13mの地点で見つかりました / 1。石垣の路地の奥に祠が祭られていて、その後ろに立てられている板塀の裏が石垣になっています / 2。





一条通猪熊西入る  
如水町  
「黒田如水邸趾」の  
石碑  
昭和4年3月・京都  
府教育委員会建立

3



中立売通裏門  
多門町  
「此付近 聚楽第址」  
の石碑  
大正4年2月・京都  
府教育委員会建立

4



中立売通浄福寺西入る 加賀屋町  
平成12・13年に千本中立売郵便局  
の北西地点で、東西方向の濠の南  
肩部を確認しています。

5



中立売通大宮西下る 和泉町他  
平成3年の調査(京都府)で本丸東堀の西肩部を確認  
し、ボーリング調査によって、濠は水濠で底の深さ  
が地表下8.4mに達することが明らかになりました。

6



下長者町通智恵光院 山本町  
交差点北西角で、平成13年に、本丸南濠の南肩を  
確認しています。下長者町通の北7mの位置で、  
濠内の堆積土は、地表下3mを越えています。

7



下長者町通浄福寺西入る 坤高町  
聚楽第の濠を初めて発見した、昭  
和39年の調査地です。西之丸の南  
濠で、下長者町通の北13.5mの地  
点に南肩が位置し、北肩までの幅  
は43.5mあります。

8



9



10

下立売通六軒西入る 長門町  
「木村長門守村重公旧館地」の石碑  
明治45年5月・市民有志建立



11

下立売通智恵光院西入る 分銅町  
裏門通は、出水通から松林寺北門に  
かけて2mほど落込みがあり / 9、  
境内にはさらに1.5mほどの落差が  
あります / 10。江戸時代から「此  
堀跡今ナオ存」とされ、外郭南濠に  
推定されています。